

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870300330		
法人名	ケアファースト株式会社		
事業所名	グループホームらくらく		
所在地	越前市稲寄町12-8-5		
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 31 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成27年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と職員の絆を取り払い、大きな1つの大家族と捉え、共に楽しみながら生活を送れるように支援している。利用者様の状態に応じた自立支援を個別的に考え、出来る事は積極的に行っていただき、生活上必要なものや、欲しいものは利用者様と一緒に地域のスーパー等に買い出しに出かけている。また、利用者様の希望を聞きながら、グループホーム全員で外出したり、季節感のある行事を行っている。地域との関わりとして、今年より回覧板を回して頂き、地域との関わりを持ち、地域行事には可能な限り参加させていただくようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成25年に越前市の東西を結ぶ戸谷片屋線が全線開通し、新しい住宅が立ち並ぶ地所に立地している。町内会の回覧板に事業所の広報誌を掲載し、地域に根ざした事業所となるよう積極的に取り組んでいる。職員の資質向上に向けて、県外より講師を招き人材マネジメントシステムを導入したり、理念やモデル行動を記載したカードを携帯し毎日唱和したりしてスキルアップに繋げている。また、主に外出に力を入れ、季節毎の行事だけでなく、夏冬の外出できない季節も冷暖房完備のスーパーやドラッグストア、デパート等に出かけ買い物や気分転換等に取り組んでいる。職員は出勤すると「おかえりなさい」という利用者からの声を励みとして一日をスタートし、笑顔で寄り添いお互いに「ありがとう」と感謝している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昼礼時に職員全員で唱和し、統一した利用者への関わりと、サービスの提供に努めている。	外部講師を招いて人材マネジメントシステムを導入し、理念を作成し直した。「最幸のスタッフ・最幸の食事・最幸の笑顔」を目指し、職員はモデル行動と社長からのメッセージを記載したカードを携帯し、毎日唱和して共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供神輿の訪問や獅子舞などに訪れて頂いたり、また散歩他近隣のスーパー等に積極的に出かけ、地域交流を図っている。	自治会に加入し回覧板に事業所の広報誌を掲載するなど、地域住民に理解と協力を得る取組みをしている。散歩や神社の祭りへ出かける他、神輿の休憩所として地域住民と交流を図っている。また、万葉菊花園に作品を展示している。	地域住民が気軽に尋ねて来られるように、地元のサロンや高齢者クラブに積極的に働きかけて、介護講習を開催するなどの取組みに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進懇談会に参加していただいている方々に、グループホームのあり方や、認知症の理解について話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的開催し、現状報告、取り組み内容等の報告を行い、ご意見を頂いている。また、夜間を想定した避難訓練を実際に見学して頂き講評を頂き今後活かしている。	高齢者クラブの代表にも参加を依頼し、状況報告だけでなく、意見を出してもらえるように工夫している。議事録を整理し、利用者や来訪者がいつでも閲覧できるよう玄関に設置している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な運営推進懇談会に出席して頂き、ご意見や動向を伺う等協力頂いている。また、困難事例発生時などは、連絡、相談をさせて頂く等、対応頂いている。	運営推進会議時だけでなく、困難事例について指導を受けている。現在、マットセンサーを取り外すための指導を受けている。外部評価結果を受け、目標達成計画を作成し、提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年より身体拘束委員会を設置し、年2回開催予定。委員会では身体拘束や虐待についての有無、及び現状について検討し極力、無くすよう改善していきたい。	玄関は時間を限定して開錠することや、マットセンサーを使用すること等について、職員間で改善に向けて話し合い、今年度から身体拘束委員会を設置した。身体拘束による弊害を理解するために、事業所内で研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修をグループワークにて開催し、皆で考え知識を共有し、職員間で意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを用い職員間で周知している。また、以前に成年後見制度を利用されておられる方がおられ、現在勤務する職員の半数以上の者が、携わる機会を得ていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面を提示し説明を行い、また疑問が生じた時には相手の方の納得が得られるまで説明を行った上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進懇談会には、出来るだけ出席して頂けるよう呼びかけている。	面会の際に意見、要望を聞いている。家族が面会に多く来るように、全家族に運営推進会議の参加を依頼したり、毎月の広報誌に写真やコメントを載せたりして工夫している。利用者の誕生会にも家族に案内し、家族ぐるみで参加することもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役職者は日頃より職員の意見や要望を聞くように心がけている。また、カンファレンス等で出された職員の意見や気づきに関しては、意見をまとめた上で代表者に伝えている。	職員関係は良好である。職員会議では交代でリーダーを務めて伝達研修や勉強会を開催し、意欲向上に繋げている。年1回職員と管理者との面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、月末に自己評価を行い、上司はそれを元に評価をしている。加えて、その結果が給与などに反映するシステムとなっている為、個々の職員のやりがいにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の判断に基づき、必要と思われる研修を計画し実施している。また、職務を遂行する上で、職員同士がチームワークをとりながらも、個々の役割が遂行できるよう日々の仕事を通して指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県グループホーム協議会に参加させていただき、研修や意見交換を行っている。また、人事交流にも参加させて頂き、他のグループホームの良い所を学び、職場に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時、及び利用開始時には本人の思いを面談にてよく聞き、不安に思われている事等にお答えしている。聴取した事柄は記録し職員間に周知を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、及び利用開始時には、困り事や不安に思われている事等を面談を通して思いを伺い、聴取した事柄は記録し必要な事は、職員間にて周知を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、面談を行い本人とご家族の訴えをよく傾聴した上で、他のサービスを含め、提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士の関わりは見守り程度とし、自ら出来る事は干渉しすぎる事無く自立支援を念頭に置き、介護を行っている。また、昔の事は人生経験の長い利用者様に職員が教えて貰っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院は基本的に御家族対応でお願いしている。また、行事、面会、外出外泊等無理の無い範囲でお願いしている。加えて面会時には近況を報告し、居室などで共に過ごせる時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や近隣の方がお見えの際には、その方にも過ごしやすい環境の提供を心がけ、さりげなく次の訪問をお願いしている。希望する方には、携帯電話を使用、及び年賀状による交流等、行っている。	馴染みの場所へのドライブや散歩を支援している。また、隣接したデイサービスセンターの友人と交流したり、親戚や友人が訪問しやすくなるように工夫したりする等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様を十分に把握し、孤立しないように職員が関わっている。気の合わない利用者様同士に関してはテーブルの配置を考えるなどし、対応し、その間を職員が取り持つ事によって関わりが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族からの相談などがしばらく続く事があり、その都度丁寧に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に本人、及びご家族からご自宅での暮らしぶりや、様子を伺い継続できるよう支援している、その他は、生活を共にする中で、本人の思いを確認している。	事業所独自のシートで利用者に関する情報を一つのファイルにまとめ、利用当初から日常的に把握した希望や意向、変化などを記録し、一人ひとりの思いをくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者様や御家族から、職歴や生活環境、サービス利用の経過などを伺い、今までの生活スタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を決め、性格や好み等を初めとする情報の把握に努め、また職員全員が周知できるように書面に残し、いつでも閲覧できるように保管している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態に変化が生じた場合は、その都度電話にて報告をしている。また、ご家族の面会時は日々の様子を細かく伝え、相談し、その内容を介護計画に反映させている。	介護計画に沿って記録し、経過記録表には「様子・変化・介護・対応」を分けて記載する欄を設け、記録しやすくなるよう工夫している。また、越前市グループホーム協議会で話し合っって作成した様式で毎月モニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づきケアを実践した際の工夫や気づきは申し送りや経過記録に記載し情報の共通理解を図りながら実践、モニタリングしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事や入浴など、日々の生活の中でも一人ひとりに対する対応を個別に考えている。新たなニーズが生まれれば、職員間で相談し、役割分担しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や学校帰りの子供との交流、老人会への参加など、楽しめる暮らしが出来るように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診を月1回実施している。入居前よりの主治医の継続を希望されている方に対しては、御家族対応にて受診して頂き、結果を共有させて頂いている。	かかりつけ医を継続することができ、原則として家族が受診同行している。また、毎月協力医の往診があり、安心して医療が受けられるよう支援している。変化がある場合は、文書で医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在時は、隣接しているデイサービスセンターの看護師に相談、対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医とは、いつでも相談できる体制をとっている。また、入院時には度々様子を見に行き、病院関係者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは行っていない状況である事を契約時に説明し、重度化した場合の対応策に関しても情報提供を行っている。また、必要時は本人にとって何が一番良い方法かをご家族と話し合いの場を設けさせて頂いている。	入所時に、終末期や重度化した場合は特別養護老人ホームや病院等に移行することを説明しているが、年月が経つにつれて利用者や家族は看取りをしてほしい、職員からも看取りを行いたいという思いに変化してきている。管理者も法人として対応したいという思いがある。	本人や家族の意向を踏まえたうえで、事業所ができる最善の支援方針について職員間で話し合われることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各事業所にAEDが設置してあり、いつでも使用できるように看護師指導の基、定期的な演習を行っている。また、緊急時マニュアルを作成し、万一の時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間を想定した火災避難訓練を実施している。消防職員や地域の方にも参加していただき、指導を仰いでいる。加えて、Jアラート試験放送を利用して、地震避難訓練に取り組んでいる。	年2回避難訓練を行い、うち1回は運営推進会議と同日に開催し委員も参加した。備蓄は賞味期限を記入した一覧表を事務所に掲示し、不足がないよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を損ねないように、利用者様は人生の先輩である、という敬意を持ち、寄り添いの介護を念頭に置き支援している。	職員が携帯するカードにプライバシーの保護に関するモデル行動が掲載され、唱和していることが職員の面談からも確認できた。個人ファイルは、人目につかない場所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で思いを言葉に乗せ表出しやすい雰囲気作りをすると共に、普段とは少し違うサインを見逃さないようにしている。その都度自己決定が出来るように利用者様の言葉を補いながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り自宅での過ごし方に近づけるように、個々のペースに合わせ、今何がしたいかなどをその都度聞きながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に出かけ、好みの物を選んで頂き、購入している。また、散髪時、髪型を職員や、美容師さんと一緒に考え相談しながら決定している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時には職員と利用者様が同じテーブルにつき、いろんな話をしながら食事を取っている。会話の中から好物を把握し、献立に反映させている。	管理栄養士が献立を立て、ホテルのシェフ経験者がショートステイの厨房で調理したものが運ばれてくる。職員は自分の弁当を利用者の側で介助しながら食べている。月2回は夕食に希望の料理と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりカロリー計算されたものを提供している。摂取量に関しては、日頃の量や体調、疾患などによって判断している。水分に関しても個々に摂取目標を定め、実際に摂取量を生活記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している利用者様には食後の口腔ケアの声かけ、見守りを行っている。介助が必要な利用者様に対しては個々に対応し、義歯の洗浄等を行っている。また、週に1度、及び必要時に義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	要介助者及び失禁のある利用者様には、排泄チェック表を用い、個々のパターンを確認し声かけ、誘導を行っている。	居室にトイレがありプライバシーが保たれている。また、職員は排泄パターンを把握し、自立に向けて支援している。また、車椅子の利用者も日中はトイレ介助にて排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用い個々の排泄習慣を確認している。蠕動運動を促すために毎日の体操や水分摂取確保を行い、必要時は起床直後の冷水飲用など、適宜行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴の提供を行っている。季節により、ゆず湯や、菖蒲湯などを楽しんで頂いている。また、シャワー浴は必要時に行っている。	週4回風呂を沸かし、原則として週2回入浴介助をしている。個浴で同性介助に努めており、職員と話をしながらゆっくり入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事や体操など、全員で行う事意外は自由にして頂き、本人の意思や体調に合わせ、休息をとって頂いたり、夜間は特に就寝時間は設けておらず各自のスタイルに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者様に対し担当職員を決めてており、担当する利用者様の服薬の事に関して熟知している。また、看護職員も服薬内容や全身状態の観察を行い、症状変化の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職歴や生活歴を考慮し、得意な事を中心に各自役割を持ちながら過ごしている。また、季節や気候などを考慮し、月に1回以上は行事、外出、食事やおやつ作り等、日々の生活を職員と共に楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、近隣への散歩や少数でスーパーに出かけるなどの支援を行っている。加えて、季節毎の花見などは勿論、その他、利用者様の行きたい所を聴取し、全員での外出や外食に出かけている。また、ご家族に対しても共に外出できるように、お声掛けさせて頂いている。	毎月担当の職員が季節を感じられる外出を企画している。また、外出ができない時期には冷暖房完備のスーパー等に出かけている。日頃から天気の良い日等に町内を回り、住民と挨拶を交わしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室内で金銭の紛失などがあり、グループホームで管理して欲しいとの申し出があり、現在は現金を所持していない。しかし、欲しいものや必要物品は職員と共に買い物に出かけ、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は携帯電話を持ち込むなどして、自由に電話をされている。その他の方に関しても、御家族の都合を考慮し出来るだけ自由に電話をして頂いている。年賀状なども、毎年楽しみながら書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテーブルやソファを設置し、また畳スペースとして小上がりを設け、くつろげる空間作りを行っている。また、外に面した部分は全面にガラス窓が設置されており、庭や畑が望めるようになっている。ウッドデッキも設置しており、日光浴など楽しめるようにベンチを置いている。	ホールに台所、食堂兼居間があり、利用者の様子が観察しやすい間取りである。壁には手作りの大型の作品や行事の写真が飾られている。中庭には梅の木や野菜作りができる畑があり、季節毎に収穫することもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではテーブル、ソファ、小上がり、ウッドデッキではベンチと思いいのところで、好きなように過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたり、家具や小物、衣類など、馴染みのあるものを持ち込んで頂き、利用者様が落ち着ける空間に出来るよう配慮している。また、ご家族の写真を飾るなど心地の良い雰囲気作りをしている。	居室に洗面所、トイレ、ベッド、エアコンを設置し布団、タンス、時計等これまで使っていたものが持ち込まれ、写真や手作りの作品やぬいぐるみ等もあり、その人らしい空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適所に手すりを配置している。また、ホールも広い為、歩行に必要な歩行器や老人車など使用しても安全に移動できている。また、居室入口には名前を明記し、迷うことなく自室に戻れるようにしている。		